

点描ぐんま経済

日銀支店長
見聞録

■100■

今回は二つの意味で特別な回だ。まず、2015年1月に始まったこのコラムが連載100回を迎えた。読者と上毛新聞社の皆さんには感謝しかない。

そして、離任する私は、その記念すべき回をもって筆を置くことになる。これまであまり公言しなかったが、といつても読者の方は気付いていたかもしれないが、テーマを「群馬、食と農の歳時記」としていた。「せっかく書くなら何か一貫したものを」と思案したのだが、ネタ切れの心配もあった。無事書き終えられ、ほっとして

群馬、食と農の歳時記

いる。このコラムは著作ではなく、後任が書き継ぐので「後書き」は無い。だから「後書きに代えて」だ。

後書きに代えて

日銀は、多くの方にとって遠い存在かもしれない。このコラムは確かにその距離を縮めてくれた。「読んでもす」初めて会った気がしませんと言われることも度々だった。ただ、皆さんの財布には、前橋支店の金庫から出て行ったお金も入っているはず。だから、前橋支店はいつ

もそばにいると思っ
て頂けたら、更にうれ
しい。

当初は自然体で経験したことを書いていたが、そのうち「群馬の：について書きたい」と思い、材料を集めることも多くなった。もし、群馬育ちの方でも興味を持ったり、県外

ほどに食と農の魅力にあふれていた。また、自然の豊かさや物価・地価の安さ、都心へのアクセスの良さ、温泉など観光資源の近さといった住環境の良さは改めて語るまでもない。そして現在、感染症の流行をきっかけにテレワークが拡大し、

から来た方が共感してくれたりしたなら、私が担当した意味はあったのだろう。
群馬は、東京からこんなに近いのに、私が担当した19回分書けるで、群馬の人気は5位

まで上昇した(ふるさと
と帰支援センター)。
前橋支店として、移住
が人口減少を抑制する
という経済効果に当然
関心はあるが、それ以上
に、群馬の人気上昇
が単純にうれしい。

地方に住んで働くことへの関心が高まる中、そうした群馬の魅力に気付く人が急増している。例えば、昨年、東京での移住相談者の中で、群馬の皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。

ろう。でも、私にとつては、群馬と縁ができたことが何よりunbelievable!
群馬の皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。



渡辺真吾(わたなべ・しんご) 1972年生

まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米ミシガン大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、金融研究所経済ファイナンス研究課長、前橋支店長などを経て、現在総務人事局。